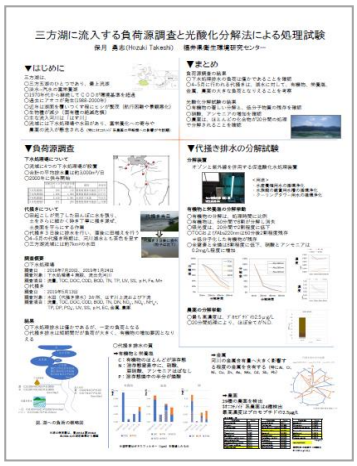
福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	三方湖に流入する負荷源調査と光酸化分解法による処理試験
発表学会名	令和元年度日本水環境学会中部支部研究発表会
発表者名	保月　勇志（環境部）
開催場所	JR 静岡駅ビル７階（静岡県静岡市）
発表日時	令和元年１１月１６日（土）　１２：００～１６：２０
発表内容	 福井県若狭町に位置する三方湖は、1970 年代の調査開始からＣＯＤの環境基準が超過し続けている富栄養湖である。以前はアオコが継続して発生していたが、近年では湖面を覆いつくすほどにヒシが繁茂している。 今回、流入河川中の有機物の特性を評価し、田畑の影響が大きいことが確認された。そこで、2019 年 5 月に水田代掻きによる負荷を調査し、炭素・窒素・燐の負荷を概算したところ、下水処理排水等よりも大きな負荷であることがわかった。 水田の代掻き後排水について、オゾンと紫外線を併用する光酸化分解装置（センン特殊光源㈱製）を用いて分解試験を行い、処理時間毎(20,40,60 分間)の各有機物指標（TOC,DOC,COD,BOD,UV）の減少傾向を確認した。TOC,DOC,COD,BOD はいずれも処理時間に比例して減少し、60 分間で 8 割程度の有機物が消失することを確認した。吸光度の減少は 20 分間で 8 割程度とより顕著に減少した。